

新村出全集

第十五卷

新村出全集

第十五卷

筑摩書房

新村出全集第十五卷

昭和四十八年九月三十日 第一刷発行
昭和五十二年五月三十日 第二刷発行

著 者 新 村 出

担当編者 土 岐 善 麿
新 村 猛

発行者 東京都千代田区神田小川町二ノ八
井 上 達 三

発行所 東京都千代田区神田小川町二ノ八
筑 摩 書 房

郵便番号 一〇一一九一

電話 東京 〇七六五二(代表)

振替 東京六一四一二三番

印刷 多田印刷株式会社

製本 矢嶋製本株式会社

落丁・乱丁本はお取替いたします

短歌篇・書簡篇 目次

短歌篇	7
-----	---

重山集	9
-----	---

後語	25
----	----

雨月	27
----	----

あとがき	42
------	----

牡丹の園	47
------	----

自序	49
----	----

四季折々	51
家庭餘情	75
羈旅遊方	85
哀傷思慕	98
愛老依々	108

白芙蓉	129
-----	-----

昭和二十七・二十八年	131
昭和二十九・三十年	137
昭和三十一年	144

昭和三十二年	148
昭和三十三年	154
昭和三十四年	162
昭和三十五年	168

昭和三十六年	173
昭和三十七年	178
昭和三十八年	183
昭和	188

和三十九年 188 昭和四十年 193

藪柑子と松毬 197 嵯峨野高等学校校歌 202

『柿園詠草』の新刊につきて 205 歌集散誦 207 詩について 212 老境歌

境 223 「群落」叢語 225 歌林漫步 227 早春京洛往来 230 西行法師

の歌 233 短歌随想 235 海南博士の『天地』 237 矢野博士の歌集『曠

原』を読む 240 『散りしく花』 243 『旅鴈』を読む 247 『せせら

ぎ』を読む 251 『寒食』の第一印象 253 『暖流』を読む 256 『中

城さうし』をよみつゝ琉球を想ふ 259 『千代見草』をよみて 261 『豊

旗雲』を読む 262 「三鷹村」七首 264 三代の思出 266 大河内さん

の歌集『桐の芽』につきて 268 中村翁の『法服四十年』 270 『草木塔』

愛誦 272 『告天子』に寄す 274 読後の一筆―『生命の波動』批評― 276 『か

とれあ』印象記 278 歌集『ふるさと』と旅の思ひ出 281 『表情』と

『新古今秀歌』 284 健全質実な作品 287 『樗の実』をよみて 288 林さ

んの『タガヤサン』を読んで 290 清純の古風今様 293 『濁流』を再読

して 295 『葯房主人歌草』推薦の言葉 297 『竹陰集』を読んで 298 従

吾所好 300 感想のまゝに―『苔の花』批評― 301 加藤順三翁の新歌集『な

がれ藻』 303 『花の素描』に対して 306 『額田抄』を読み 308 『婦

女身』序文 310 ふたたび『婦女身』について 314 『若きウタリに』のはじめに 316 『あの山越えて』序文 317 山頭火を愛読して 319 『其中日記』序文 321 『青蓮』序文 323 『七野』小序 325 『遠ゆく川』序 326
『雲林』序文 328 『空のなごり』題言 330 『甘静』序 332 『橘頌』序文 333 『この花』序文 334 『藪茗荷』序 335 『情延荘』序 338

書簡篇

秋山晴一 343 富士川游 372 大槻文彦 374 佐佐木信綱 375 金田一京助 385 和辻哲郎 396 山村順 404 木水彌三郎 406 関根正直・秀雄 445
神田喜一郎 447 土田杏村 449 土井忠生・勝子 451 荻原井泉水 464 土岐善麿 477 市河三喜・晴子 523 水沢澄夫 527 本間久雄 529 北原白秋 530 石田憲次 531 矢野仁一 533 田中秀央・静枝 535 上野精一 540
生方たつゑ 545 岩井武俊 548 高藤武馬 555 中村幸彦 558 尾崎久彌 560 水野葉舟 561 狩野直喜 563 中村茂 565 小山忠雄 579 古川久 581 谷崎潤一郎 584 藤井徳也 587 岸田定雄 588 森豊 591 飯田宏 617 米谷源三 620 山梨紫朗 622 中川芳雄 623 法月吐志楼 624 長間光雲 625
久松潜一 627 佐竹大鑑 629 市村宏 631 大山澄太 652 清水千代子 663

林屋永吉・園子 666 李家正文 669 富岡益五郎 672 木村宣明（陽山） 674
 山内義雄 676 夏目隆文 678 岡山泰四 681 広瀬誠 684 山本修之助 689
 泉井久之助 691 安田青風 693 後藤常三（御倉屋） 700 伊藤正雄 702
 松平静・千秋 704 中南忠雄・石川春之助 706 团伊玖磨 707 本庄栄治
 郎 708 円地文子 712 伊吹武彦 714 松村博司 715 出川忠治（相馬
 大） 717 入矢義高 718 勝田哲 719 近盛晴嘉 720 三品千鶴子 724 元
 井三門里 727 上坂宗育 730 阪倉篤太郎・篤義 731 東辻保和 736 渡
 辺一夫 740 小沢林成 743 石田英二 744 渡辺達吉 745 山岸徳平 746
 五十嵐久雄（播水） 747 井上清一・愛子 749 高岡謙次 751 久保田義
 正 752 宮本周子 753 田中順二 755 日置広雄 756 森田たま 758 新
 村猛雄 759 新村豊子 760 渡辺留子 765 八角三郎・澄子 772 荒川重
 雄 775 谷村順藏・幸子 778 新村猛 789 関口益 790 小林仙次 792 五
 十嵐（福田）桜 793 五十嵐一夫 796

解説

.....
 土岐善磨
 新村

新村出全集 第十五卷 短歌篇・書簡篇

短篇

重
山
集

歐洲初渡 三首

大船のおもひたのみて来つれども筑紫の海はかしこかりけり

赤き糸にわが名ぬひおきし旅ごろもうちかへしついてもをしぞ思ふ

夕日かげ椰子の葉ぐるまひく牛のあゆみもたゆしねむの花ちる

浦港を経て帰朝す

浦汐のみなどの氷とけはてて日の本の海ゆ春の波寄す

上海より帰る船路 二首

真東にすばるの星はきらめけり月まだ出でぬ宵やみの海

岩岐の北をおきかぜ衝きてふねゆけば瀬戸の夜汐のとどろけるかも

船首像エラスムスの国宝保存を慶す

紅毛の貨狄尊者はとこしへにまさきくおはせ浦安の国に

広島の大学にて

ふみぐらの壁にまつはる蔦の葉のみづる秋にあひにけるかも

新嘉坡所見

カメレオン木ずあとびかふ南国のまひる静かに火^ね燐^む木の花ちる

白国ルワヌ復興図書館

朱塗せる書^ふ棚^{たな}の上^へにかざりたるやまとのふみのうつくしきかな

じやがいのもの白き花さく畠すら和蘭ゆゑになつかしきかな

ワイマル公苑ゲエテ鑽仰、詩人百年祭

鴨脚葉いもぎはのくしきふたばをたたへてし大うたき詩人びとことほぎまつる

南仏にて

いもとめでし泰山木をこづくにの園生に見つつわぎへしのびつ

マロニエ 八首

千枝しげるしだれマロニエひろければ青葉のかげにいこふ巴麗びと

のびしげる葉広マロニエさみどりに白き房花いまさかりなり

をりをりに白きがなかにうちまじる薄くれなゐのマロニエの花

古寺のノオトルダムのマロニエのはのしろみつつくもる夕ぐれ

夕風にマロニエ散れば巴里の街の春もゆくかなしかりけり

レアンドル・エロオの像に春たけてマロニエの花ほろほろと落つ
たえずたつ都大路の塵をおほみマロニエ若葉萎えにけるかも

いつしかに青葉くろみてマロニエの実になる見れば秋たちにけり

東帰船上 六首

船ばたのたぎつ白波にうち散りて流れただよふ小夜光虫

いにしへのアラブの船に南蠻のふねに幸はひし時つ風かも

アラブの海あらぶる夏の時風にひがしへいそぐ船はやきかも

むらぎもの心をよわみ風早の印度の沖に船ゑひにけり

小島ひとつ見とめてわれもたのしむか大わたつみの長き船ちに